

東京言語研究所 公開講座

大学入試改革・教育改革の中の 「ことば」

＜講師＞ 南風原 朝和（はえばら ともかず）
（東京大学名誉教授／心理統計学）

司会：大津 由紀雄（関西大学客員教授、慶應義塾大学名誉教授）

＜日時＞2020年10月31日（土）14:00～17:00

＜講義形式＞ZOOMによるオンライン講義

＜参加費＞2,000円

＜申込み＞事前申込制

「ホームページ申込みフォーム」よりお申し込みください。

講師
略
歴

東京大学大学院教育学研究科教授，研究科長，理事・副学長，高大接続研究開発センター長を経て，東京大学名誉教授，広尾学園中学校・高等学校長，環太平洋大学次世代教育学部特命教授。日本テスト学会理事長。文部科学省の高大接続システム改革会議委員を務めた。著書に『心理統計学の基礎』，『続・心理統計学の基礎』（ともに有斐閣），『臨床心理学をまなぶ7 量的研究法』（東京大学出版会），編著書に『検証 迷走する英語入試』（岩波ブックレット）など。

問合せ先

公益財団法人 ラボ国際交流センター 東京言語研究所

〒169-0072 新宿区大久保 1-3-21 新宿TXビル2階

TEL:03-6233-0631 FAX:03-6233-0633

ホームページ：<http://www.tokyo-gengo.gr.jp/>

講演要旨
は裏面へ

【講義要旨】

大学入試センター試験に代わる大学入学共通テストが2021年1月に初めて実施されます。新しい共通テストでは、英語民間試験と記述式問題の導入が大きな話題になりました。いずれも「ことば」の評価に関わるものです。また、新しい学習指導要領も2020年度から順次、完全実施されますが、そこでは小学校の英語の早期化と教科化が注目されています。これは「ことば」の教育に関することです。

一方、この一連の大学入試改革、教育改革では、「高大接続」、「知識偏重」、「1点刻み」、「学力の3要素」、「思考力・判断力・表現力」、「グローバル」、「4技能」といった「ことば」がキーワードとして使われ、広まりました。しかし、たとえば「接続」とは何か、「知識」とは何か、といったことは必ずしも明確に定義されていません。そして、それらの「ことば」の意味が曖昧なまま、改革が進められた面があり、そのことによる混乱も生じているように思います。

今回の講義では、大学入試改革と教育改革の経緯と現状を整理してお話しし、その中での「ことば」の教育と評価の問題、そして改革の中でキーワードとなった「ことば」の意味について、さらには改革そのものについて批判的な検討を行いたいと思います。

プログラム（予定）

14:00～主催者挨拶

14:05～14:45 講義1 南風原朝和（質疑応答含）

14:45～14:55 休憩

14:55～15:35 講義2 南風原朝和（質疑応答含）

15:35～15:45 休憩

15:45～16:05 講義「言語心理学からの付録」大津由紀雄

16:05～16:10 休憩

16:10～17:00 質疑応答・全体討論